

鹿児島県 阿久根市立図書館

基本データ

所在地	鹿児島県阿久根市高松町 2番地
職員数	6人
うち司書数	4人
蔵書数	約83,000冊
利用登録者数	約9,900人
年間貸出冊数	124,276冊
	(児童用図書貸出数 約56,000冊)

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】子供の読書啓発、子供に対するサービスの充実

【活動のねらい】

- 少子高齢化が急速に進み、これまでの図書館活動においても、読書の楽しみを更に広めること、また歴史文化の継承の重要性を認識してきた。そこで、児童の健全育成、高齢者の生きがいづくり、文化の継承等を目指し、地域に根ざした活動をはじめた。
- シルバー世代の力を結集した読み聞かせによる伝承活動を通じ、阿久根の七不思議の紙芝居化等で、次世代を担う子ども達への地域文化の啓発と継承活動を行っている。

取組・活動の概要

【対象】

- 阿久根市全域及び、周辺地域での読み聞かせ。

【頻度】

- 4月を除く5～3月までの11か月間で、月10か所程度。

【取組の概要】

- 学校・幼稚園・いきいきサロン・施設で読み聞かせを中心とした交流会を実施。地域や季節の話題も織り込みながら、大型絵本や大型紙芝居、パネルシアターなど図書館の素材も多用しつつ、それぞれの世代の歌、手遊びなども取り入れお話を実施している。
- 現在13名で活動。読み聞かせ1か所あたり30分の時間で2名を基本に配置している。
- 平成24年度から平成30年度までの派遣回数合計626回。
- 参加者総数は23,186人。郷土を改めて見直し、読書推進、文化財伝承活動の拡大に努めた。
- 阿久根市に昔から伝わるあくねの七不思議を大型紙芝居化。現在、うち4話を制作済み。残り3話は制作中。4話のうち1話(てんぐのあしあと)は絵本化し、幼稚園や学校、施設等でも活用されている。これら大型紙芝居も積極的に読み聞かせ時に用いられ、阿久根市の文化継承に役立っている。



あくねの七不思議てんぐのあしあと上演



紙芝居制作の様子



制作した紙芝居



幼稚園での読み聞かせ

- 月一回の定例会を開き、読み聞かせ場所の選定や、情報交換、反省点の確認、新規内容の協議を積極的に行っている。
- 写真入りの報告書を毎月作成し、他所でどのような内容を行ったか、反応はどうであったかなど共有が出来るようにしている。
- 今後は、更に他地域との交流、技術の向上を目指し、七不思議の残り3話も完成させたい。

取組・活動の工夫や特徴

- 県の助成事業活用を活用し、平成23年は、この読み聞かせ活動の育成事業、「読み聞かせ指導者育成講座」を開設した。
- 鹿児島大学と協働で阿久根語りベスペシャリストを育成、地域再生の基盤となる読み聞かせ専門家を輩出した。
- 講座終了後、阿久根市の教育・観光・文化の向上に寄与するべく活動、地域全体の教育向上・生涯学習の推進・世代間文化交流を図り、阿久根の地域力を発信し続けている。

取組・活動の成果や今後の展望

- 阿久根市の歴史・文化を伝承し担う子どもたちがゴールド、高齢者が元気な生きがいづくりを目指し、培った知恵や経験もゴールド。この2つが合わさり、阿久根市の力となり、元気なまちづくり・人づくりを目指して活動を行っている。
- 幼稚園から福祉施設まで幅広く実施し、幼・保育園での読み聞かせは毎月実施している園もある。また、小学校や中学校でも毎月朝読書の時間に訪れている所があるが、聞く力や集中力が向上しているのを感じる。そこで出会った子ども達が図書館に来館されるようになり、声をかけられることもある。
- 七不思議の紙芝居の読み聞かせの効果として、幼稚園では七不思議について学ぶ時間が設けられるとともに、学校でもこの七不思議を調べる学習へと繋がり、あらためて小学校で上演をすることとなった。